

2019-2020 年度 国際ロータリー第 2780 地区 インターアクト年次大会 生徒会活動報告書

日 時：11月23日(土) 10:00~15:00

場 所：神奈川県立弥栄高等学校 視聴覚室

参加者：3年 望月 川原 佐藤 2年 三浦 山本 石田 1年 野村 松本 藤本 谷口 吉原 堀 三浦 川野 川崎 高田 齋藤 山口

報告者：生徒会2年 山本 生徒会1年 野村 川野 高田 谷口 補筆 武田 校正 荒川 伊藤



◆ 活動目的

- ①. IAC(インターアクトクラブ)の活動によって自らのコミュニケーション能力・行動力を高める
- ②. プレゼンテーション活動を通し、自らの発信力を高めつつ、他校の活動より刺激を得る
- ③. 常に最上のプレゼンテーションを目指し、他校とは異なる自分たちのオリジナリティを目指す

◆ 活動内容

年次大会とは、第 2780 地区ロータリークラブが提唱している 13 のインターアクト加盟校が一堂に集まって、各校の活動内容を発表する場となっています。私たちはこのプレゼンテーションのために「年間の活動報告」と今回の大会テーマ「高校生の可能性～私たちにできること～」に沿ってパワーポイントを作成いたしました。大会テーマについてはみんなで話し合い、集約した意見は「**偏見をなくし、広い視野を持って生活する**」でした。そして、そのパワーポイントをもとに前年度に引き続き今回も原稿に頼らない発表を行おうと、数多くの発表練習をしました。

当日、開会式の後、各校の活動発表を行いました。発表内容は「年間活動内容」、「今年度の活動についての感想」、「次年度の抱負」、「大会テーマ」の順に統一されています。

本校の発表については、「年間活動内容」で、各月のインターアクト関連活動を中心に数あるボランティア活動を発表しました。「今年度の活動」については、硬式野球、軟式野球、サッカー、女子バレーと数多く参加した「部活動応援」や募金総額 60 万円を超えた「24 時間 TV チャリティー募金活動」と盛況

のうちに行われた「よこすか・ゆめ・みらい」を重点としました。「次年度の抱負」では地域で取り組んでいる「ガム取りボランティア」の回数を10に増やす目標も発表しました。

昼食のあとに、「新世代シンポジウム」がありました。福祉に関係する4人のパネラーのお話を聞きました。まず、相模原南児童ホームの理事長をされている**財前美紀**さんから、親元から離れて生活をしなければならない子どもたちの話を聞きました。相模原市社会福祉協議会職員の**井上慎吾**さんからは、高校生・大学生のボランティアとの関わり合いについて話を聞きました。日本語指導員として活躍している**黒田協子**さんからは、日本にいる外国生まれの子供たちが、言葉が理解できないために生まれてしまう不平等について話を聞きました。最後に司会を務めて頂いた弥栄高校の**永瀬一哉**先生ですが、県立の先生でありながら「インドシナ難民の明日を考える会」の理事長を務めつつ、カンボジア政府顧問も務めている方です。永瀬先生がインドシナ難民、カンボジアと関りを持つようになったかのお話を聞きました。4人と人数は少なかったのですが、社会の中で福祉が必要とされる方が、とても多いことに気付かされました。各校の代表者によって、一言ずつ発言があり今回の大会のまとめとなりました。

◆ まとめと感想

今回、私は「一年間の活動内容」を担当しました。皆にたくさんダメだしをされ、初めの原稿は読めなくなるほど黒くなって印刷をし直しました。一番目の発表だったのでとても緊張しましたが、他校の皆さんや先生方が発表中にたくさん反応してくれてとても嬉しかったです。

記：生徒会1年 高田 歩美

今回の大会で「今年度の感想」を担当しました。内容は24時間TVチャリティー募金活動と、部活動応援について話をしました。多くの人の前で発表をすることは大変緊張しましたが、当日までの発表練習と一緒に発表した後輩たちのお蔭で成功へと繋げることが出来ました。また、様々な学校の発表の仕方やスライドのデザインは参考になるものばかりで勉強になり、今の私たちに大きな衝撃を与えてくれました。次年度も今年度の反省や学んだことを活かして良い発表が出来るよう努力していきたいです。

記：生徒会2年 山本 暖歌

私は「次年度の抱負」を担当しました。最初は簡単な原稿を作り、1回目のリハーサルを迎えたのですが、皆に色々なダメ出しをしてもらい、何度も原稿を作り直しました。しかし何と、当日家に原稿を忘れ、原稿なしの発表となりました。なんとか内容を思い出しながら発表をして、乗り切ることが出来ました。個人的には面白く発表することができたと思っています。

記：生徒会1年 川野 夏

今回は「大会テーマ」を担当しました。内容は「高校生の可能性～私たちにできること～」です。私たちは性的マイノリティについて話合いました。その中で先入観から偏見が生まれる例としてスイカの話を出して話を進めたのですが、頭に「？」が浮かんだ人もいたようで、もう少し噛み砕いて説明すれば良かったです。緊張しましたがしっかり話せました。また機会があればチャレンジしたいです。

記：生徒会1年 野村 晃暉

今回のパソコン操作の担当をしました。原稿がない分、発表者と多くの練習をしてきました。発表者とアイコンタクトによってタイミングをはかり、無事発表を終えることができました。失敗も多くなりましたが、なんとか乗り切ることができてホッとしています。

記：生徒会1年 谷口 勇人